

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

B U N K A T S U S H I N

2020夏 No.106



ふるさとの文化を未来に託す

財団の原点は、多くの子供達に故郷の文化に誇りを持って世界に羽ばたいて欲しいという願いです。また、茶の湯にはそうした日本人の美意識や価値観を伝える文化の芯というのがあると思います。現代のようなグローバルな時代にこそ、そうしたアイデンティティが必要だと考えています。

- COVID-19御見舞い 幻の若人茶会と讃岐もの
- 五人様茶会の新しい試み／数寄屋のあれこれ
- 特別寄稿「無事」と「音楽」 西垣正信
- 6月から8月までの茶華道情報／財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL (087) 826-3355 FAX (087) 826-2212
2020年夏号 No.106 6月1日発行(季刊)

幻の若人茶会と讃岐もの

世界中に広がってしまった新型コロナウイルス感染症との戦いが始まって、早3ヶ月余りが経ちました。皆さんも「ステイホーム」の自粛生活を余儀なくされ、改めてお見舞い申し上げます。

今年も4月に予定しておりました第6回「若人茶会と讃岐もの」は感染拡大を防止するために、中止とさせていただきます。

昨年より一緒に準備をして下さいました各高校の茶道部の皆さまや、伝統工芸士や文化の伝承者の皆さま。運営スタッフの皆さまにも実現できなくて、本当に残念でした。

来年は、ぜひ実現できることを念じて未発表に終わったパンフレットを掲載させていただきます。

また皆様と笑顔でお会いできますように、この事態を一緒に乗り越えましょう。STAY HOME with TEA!



お茶席のご案内

1 榎の間

三木高等学校茶華道部(裏千家)



日本の「和」、東京五輪の「輪」、会話の「話」の3つの「わ」を掛け合わせた趣向でおもてなしします。大きく立派な広間で、お客様1人1人とお話をしながらお茶を楽しめるようになっております。(講師:塩谷宗恵先生)

2 松の間

高松西高等学校茶道部(裏千家)



私たちは、週1回のお稽古を通して、お点前や作法はもちろん、茶道の歴史、四季折々の趣など、心豊かな学びを得ています。その成果を生かし、みなさまに心を込めたおもてなしをいたします。(講師:横倉宗翠先生)

4 蘇鉄の間

※茶席開始時間と関係なく随時ご案内

三友堂:大内英生(和菓子作り体験)



子供さんに大人気の和菓子作り体験。できたてのお菓子を持って、となりの石田高校茶道部の皆さんのお茶席へどうぞ。ご希望があれば、自分でお茶を点てる体験も出来ます。

3 桐の間

高松高等学校茶華道部(武者小路千家)



今回初めて参加させていただく私たち高松高校茶華道部は、官休庵の「縁」も深い地元香川の名工たちが作ったお道具を使って、心をこめておもてなしいたします。どうぞ、お越しください。(講師:佐藤守春先生)

石田高等学校茶道部(武者小路千家)



石田高校茶道部は小池先生のご指導のもと週2回お稽古をしています。玉藻公園でのお茶席は初めてですが、部員一同皆様によるこんでいただけるよう精一杯頑張ります。(講師:小池妙公先生)

5 杉の間

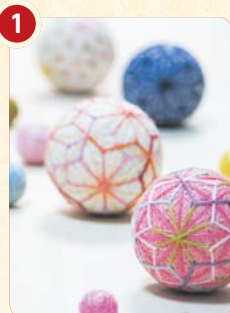
高松商業高等学校茶道部(武者小路千家)



皆様に高松商業茶道部のお茶席を楽しんでいただけるように部員一同心を込めておもてなしいたします。ぜひお越しください。(講師:古市千秋先生)

大書院 ワークショップ

¥ = ワークショップ料金
⌚ = 所要時間の目安



讃岐かがり手まり保存会 [讃岐かがり手まり] ▶ 巻きまり他

伝統
工芸士

讃岐地方に伝わる草木染め木綿糸を使用して作る、素朴でやさしいかがり手まりです。

ワークショップ

¥ 巻きまり体験 500円 ⌚ 約30分
¥ 麻の葉模様かがり体験 2,000円 ⌚ 約1時間

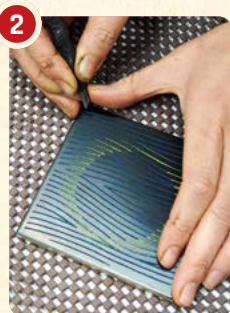


結納センターつちだ

[さぬき水引工芸] ▶ プレスレット、ストラップ

1400年間大切に受け継がれてきた“幸せ”を結ぶ「水引」であなただけのオリジナル色のプレスレットやストラップを作ってみませんか。

ワークショップ ¥ 600円 ⌚ 30分



香川県漆芸研究所OB会 [香川漆芸] ▶ コースター

江戸の名工、玉椿象谷から伝わる彫漆の技法を使ってコースターをつくってみませんか。香川県漆芸研究所を修了したOB達がワークショップ、作品展示・販売いたします。※先着20名様

ワークショップ ¥ 2,000円 ⌚ 1時間



紀太理平

[理平焼] ▶ 絵付(湯呑、茶盃)

伝統
工芸士

焼き物に絵付けをしてみませんか。湯呑や茶盃にオリジナルの絵を描いて楽しみましょう。

ワークショップ

¥ 湯呑 1,500円、茶盃(小) 2,000円 ⌚ 30分



和洋盆栽ショップ ratelgreen [盆栽] ▶ 盆栽

ラータールグリーン

インテリアに馴染むカジュアルな盆栽を作ってみませんか？ お好きな溶岩鉢をお選びいただき創作します。

ワークショップ

¥ 1,500円 ⌚ 30分程度



大井建具店：大井淳一

[組手障子] ▶ 本捻組、コースター

伝統
工芸士

まるで縦糸と横糸で織られた布のような模様の「本捻組(ほんねじぐみ)」を体験していただけます。どうして木でこんなことができるのでしょうか！

ワークショップ ¥ コースター1,000円～、本捻組 2,000円～ ⌚ 15～20分



山西商店：山西就治 [志度桐下駄] ▶ お守り豆下駄

伝統
工芸士

100年以上の伝統を今に伝える志度桐下駄。それを豆下駄にして、無事に帰れるお守り下駄を作しましょう。

ワークショップ ¥ 800円 ⌚ 10分



豆花×香川maker [菓子木型] ▶ 干菓子作り

香川大学
学生チャレンジ
プロジェクト

香川の伝統工芸品である菓子木型で和三盆干菓子を作ります。作りたての和三盆は口の中でほろりとほどける感動の柔らかさ。美しい木型のデザインと一緒にたのしみください。

※好きな木型を2本選んで、作ったお菓子は持ち帰りいただけます。

ワークショップ ¥ 500円 ⌚ 15分

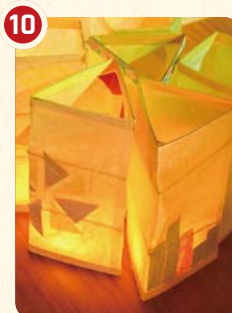


香川県うちわ協同組合連合会 [丸亀うちわ] ▶ 割き他

伝統
工芸士

400年の歴史を有する丸亀竹うちわの技術。47の作業工程の内、竹の製造工程から割り(わき)・もみおろしと、編み・付けの工程を、伝統工芸士の指導で皆様に体験していただきます。

ワークショップ ¥ 1,000円 ⌚ 30分



TERASU [讃岐提灯] ▶ 折提灯

香川大学
学生チャレンジ
プロジェクト

香川県の伝統工芸品である讃岐提灯の中でも、約1000年の歴史がある「折提灯」を作ることができます。自由にデザインしてオリジナルの讃岐提灯作りを体験できます。

ワークショップ ¥ 500円(ライト付) ⌚ 20分

五人様茶会の新しい試み

新型コロナウイルスの影響で財団も長いお休みをさせていただいて大変心苦しく思っておりますが、皆さんもお茶会やお稽古がいつも通り出来なくて大変な思いをされているのでは無いかと思います。

そんな中で、夏の講座でご講演いただきました遠州流の浅井宗兆宗匠からも「幸いにも私たちにはお茶があります。ステイホームウィズティー（自宅でお茶を）で乗り切りましょう」というメッセージをいただきました。

五人様茶会のきっかけ

財団で月釜のように開催している「五人様茶会」について少し考えてみたいと思います。

戦後の茶道人口の急激な増加によって近年は大寄せの茶会が主流になりました。茶会のあり方もそれと共に発展して、一日に千人以上のお客様をお招きするお茶会も珍しくなかったのですが、茶人の高齢化と共に、このところは急激に減速してきました。

以前に財団の主催した大茶会では、流派を超えて、たくさんの方の皆様に世話になりながら十年間続きました。「大茶会で茶人の交流の輪が広がった」という、嬉しい言葉を頂戴して恐縮することも度々ありました。そして五人様茶会は茶の湯の楽しみをもっと深く、多くの皆様と共有するためにスタートしま

した。

きっかけは、デザイナーとして活躍され、「新しいお茶の文化」の提唱をされていた内田繁先生の組み立て式の茶室が、高松に貸し出しされたことでした。通称「鳥かご茶会」と呼んでいましたが、約2ヶ月間、先生がデザインされた新しい茶道具の展示と共に開催された毎週末の連続茶会のお手伝いをしたことでした。

この時の茶会では、茶人以外の人にも茶席の亭主を勤めていただきました。北欧で勉強した建築家、イタリアンの料理人、ラジオのパーソナリティー、店舗のデザイナーなど。どなたも自分の世界をお茶に置き換えて表現できる皆様でした。お茶のおもてなしの形式を借りた実験的なお茶会でした。お客様も普段お茶をされない方がたくさん参加され、茶の湯の面白さを体験していただきました。これは、お茶会の可能性についての新しい発見でもありました。



茶事のような五人様茶会

五人様茶会は、財団の茶室の特徴を生かして濃茶席と薄茶席と点心席の三席構成です。簡略化した「茶事」のイメージで始めました。茶事は究極のおもてなしとされています。

ご存知のように茶の湯者にとっては、茶事ができるようになることがひとつの目的です。そして、茶事百回でようやく一人前とかとも言われます。利休さんの茶会記なども茶事の記録です。

「月に一度の喫茶室」の折にいろんな方に各流派の茶事の稽古の思い出をお聞きすると、例えば「お菓子の茶事」というのがあると聞いて、ぜひそれを一度お願いします。といった感じで始まったと思います。一世代前の茶人の皆様は、懐石料理の実践勉強なども普通にされていたことも知りました。亭主としてお茶の

点前だけでなく料理までできるようになるというのは、かなりハードルが高い話です。また、流派によって面白い茶事があることがわかりました。

ところで、本当の「茶事」は、亭主から招待状が送られてお返事を出すところから始まります。そして茶事に参加した後には、感想などを認めたお礼状も送ります。気軽に体験できる「五人様茶会」は、画期的な企画だと思います。

お茶会はもちろん、懐石料理に準拠したお茶の為の点心は、それなりの作法もあって、単なる食事ではありませんが、京都でもこうした機会は多くないので、ご興味があれば、あまり難しく考えないで、ご参加いただきたいと考えています。

試行錯誤の繰り返し

五人様茶会は、財団が主催しているいろんな先生にお願いするのですが、実施にあたってはご亭主の希望を第一と考え、私共は常に裏方に徹しながら、勉強をさせていただきました。

当初お客様の数は五人様と言いながら参加のご希望が多い場合には、ご亭主の許可をいただいて十人くらいまで受け付

けていました。実際には、五人までなら、全員に席中でお点前のお茶を差し上げることもできますし、亭主との問答も少人数でゆっくりと楽しめますが、十人となると、半東が水屋からお茶運び出してバタバタしてしまいますし、水屋にも点てる人が必要になり、大寄せの時と変わらない事態になってしまいました。

最近では、出来れば六名までに止めているので、「お客様との距離を近くに感じることができてゆったりとした時間が味わえる」とか「なかなかお稽古のできな茶事の修練の場になる」と喜んでいただけるようになりました。

また、お願いできる亭主の幅が広がるという利点もありました。例えば「仲良しグループで、それぞれの個性のぶつかり合いの中から、担当を決めてお祭り騒ぎでお茶会の企画ができて楽しかった」と言ったように、仮に社中がいなくても、仲の良いお友達に手伝って貰えば、一人でも亭主が可能になります。

更に言えば、茶人じゃなくても茶会の形式を借りれば茶会が成立するのではないかという可能性も感じました。

そこで、次の試みとして、二つの茶席の一つが紅茶席とか、中国茶、煎茶、ハーブティ席など、茶席の組み合わせを変えたコラボ企画をやってみました。

お客様の側からは「少人数でリラックスできるし、何よりもそれぞれの『好き』と奥深さを新発見できる楽しいひと時になる」といった感想もいただきました。

現代は、お茶も多様性の時代です。マナーやテーブルコーディネートなども人気がありますし、それぞれにおもてなしの世界が発展しています。

今後の展開について

これからの課題として「お客様は少人数でゆっくり寛げても、五十分毎に茶席を仕切らなければならないのは、大寄せの時と変わらない」といったご意見もいただきました。「もつと、茶席の代金を上げて、双方がゆっくりできるようなにならないか」というご提案です。

確かに財団の現状のやり方では、一日に八席から十席を休みなく連続でこなして行く感じなので、実際はかなり大変です。まだ大寄せの茶会の時の癖みたいな考え方が残っているのかもしれない。意識を変えていくのは一朝一夕ではできませんが、今後はそうしたことも含めて、ご亭主のご意向と相談しながら、双方に満足度の高い五人様茶会のあり方を工夫できればと考えております。

今回のコロナ禍においても、三密を避けるとか、マスクの着用や手洗いの励行などしばらくは新しい生活様式に慣れる生活が続きそうです。茶席も、当分の間は少人数で間隔を空けて開催するようになると思います。財団でもいつから再開できるようなのかわかりません。しかし、五人様茶会なら割と早めに実現できるのでは無いかと考えております。

数寄屋のあれこれ

茶室の畳②

茶室もそうですが、もともと日本建築の設計というのは、畳の寸法が決まっていますから、まず間取りの平面図を決める所から始まります。部屋の広さと配置。それと柱の太さから敷居の幅が決まり、廊下の配置と幅を考えて、全体の大きさがあらかじめ決まります。まずは畳の寸法から始まるというのは、現在の建築とは真逆の感じですね。

茶室の畳というのは、それぞれに役割があります。床の間の位置と炉の位置が決まると点前座の位置が自ずと決まります。床の前の畳は貴人畳。それに続く部屋の周りの畳が客畳。半東が動く畳は通い畳。広間の場合は、茶道口から入る畳が踏み込み畳と言います。

小間の茶室では、点前座に台目畳という寸法の短い畳が入ることも多いです。この台目畳は、例えば四畳半の場合は一間半四方の部屋となりますが、それに床の間と専用の点前座が均等に入る感じなので、長さは四分の三ずつになり、部屋を狭くすることなく使えますし、全体の収まりもよくなります。

小間で茶事をするとき



などは、5人くらいのお客様に懷石料理をお出しするので、このくらいの広さがあると便利です。

もつと狭い三畳や二畳の席でも台目畳の点前座があると、より親密な感じのお茶事が可能になるので、多くの数寄者がそれぞれに工夫を凝らして面白い茶席を作りました。

侘び茶の祖と言われる千利休が作った国宝の茶室「待庵」は、二畳角炉の極小の茶室として有名ですが、これは点前をする亭主とおお客様の距離がとても近くてかなり緊張するかもしれません。元々は秀吉公の陣中見舞いに即席で建てられた茶席という話も伝わっています。

さて、茶室の畳に座る時は、畳の縁から少し下がって座りますが、後ろに下がると建具や壁に当たってしまうし、立つときには後ろに扇子を置いたりしますので、膝の位置はお茶碗が置けるくらいのスペースを空けます。菓子器が置かれるのは縁の外側です。テーブルは基本的に使いませんし、口にするものを置きますので畳は常に清潔に保たないといけません。ですから茶室に入る時は、待合で足袋を履き替えます。洋服の時は白いソックスを用意しているのがエチケットです。

財団の活動の初期から茶室でのサロンコンサートなどでご協力くださった西垣先生よりご寄稿をいただきました。

特別寄稿

「無事」と「音楽」

西垣正信



1995年阪神淡路大震災の折、私は神戸でその一番激しい揺れを記録した断層のほぼ真上におりました。通信電気ガスが止まり、廃墟のような様子のなか、最初に届いたのがこの揮毫でした。

私が高校生のころから私淑した盛永宗興老師から、震災前に投函されたものでした。老師はまもなく同年に遷化されました。

子供のころから老師から揮毫や色紙をいただくときは、いつも「戒め」か「お叱り」でした。私の出来が悪かったたからなのです。「雷が落ちる」とはよく言ったもので、私は反射的にスッポンのように首をちぢめたものです。郵便物を開くと「無事」と染筆されていました。もちろん災禍に無事、ということではありません。しかし、震災の避難所の方がたにお見せしたところ「流石にえらいお坊様、予言なさっている」と大受けでした：誤解もうれしいことでした。その真相は私への戒めです。高校の体育館の床には隙間なくご遺体が並んでいた頃のことです。

私も一人前に思春期、男の子がだれでも抱く迷い、根源の悩みを強く持っていました。生きること、時間、死、性など

の欲望、そして失うこと：青春は悩みの嵐です。中学のころから読書だけが早熟だったのです、本当の知恵がなかったのです。

厚かましく京都の禅寺大珠院に老師を訪ねたのです。「坊さんならなにかを知っているかも知れない」という心でした。

自我と見栄が服を着たような少年の突然の来訪を老師は普通に受け入れてくださり、大珠院に通ったり寝泊まりすることになりました。そのころの大珠院は老師のもとに若い数人の学生やお坊様が住まわれていました。

住むといってもとても小さな寺でした、火鉢などの火がある台所近くの屋根裏が一等の寢床でした。そこが唯一の火があるところでしたから。普通には厳しい生活のはずですが、私には天国のように寺は居心地がよいところでした。どんなに偉い人も富裕な家庭の子息も私のような無一物のものも完全に平等な世界でした。禅寺の厳しい規律も心地よいものでした。

そのころ、こつびどく叱られたときに頂いたのも、この「無事」の色紙でした。茶人の皆様はご承知のことですね。臨済

録：教科書ですね：「無事は貴人」^た但造作すること莫れ、「造作」というのはたぶん「わざとらしい意図のあること」なのでしょね。善だの悪だの、美だの醜だの、悟りだ迷いだとの比較の考えにとられること、なのでしょね。

現在の災い「ウイルスだのよい薬、良い抗体、悪い抗体」すべて人間本位都合でレッテルを貼っているようです。そんなことの無い人が偉い（貴人）。老師のお叱り「お前さんは自分を大きく見てもらいたい、という気持ちはまだ心底は捨てられていない！」

そのころの私は音楽か科学（理系少年でした）か仏道かの選択も迷っていたころでした。ある日老師の部屋（私どもと一緒に同じ生活をされていました）に呼ばれて「お前さんは仏道には向かん！綺麗な子がいると振り向くしな」と分厚い封筒を頂きました。

「これで今、招いてもらっているフランスの音楽院に行きなさい」。封筒は高額のお金でした。檀家の一軒もない小さい寺は決して裕福なはずはありません。そのありがたさ、なんの縁もない少年に託してくださいましたことを忘れません。

大珠院に多くの著名な偉い方々や、名もない偉い方々が参集していました。茶の世界では裏千家の前家元、千玄室氏は老師を兄と慕われていました。現家元も老師に参禅されていたそうです。武者小路千家の千宗守さんも大珠院に入っておられました。私のころの台所（典座）に

は時々吉兆の湯木貞一さんが火鉢に陣取って、裏の畑から抜いてきた大根を煮てられました。

私どもが典座の手伝いをするの妙心寺の精進の名店「阿じろ」先代の瀬尾さんからニコヤカにきついお叱りが飛んできました。高名な理系の学者や画家もおられました。この寺の卒業生は私のような音楽家も、理系の学者もいました。

当時若い私が老師にこんな質問をしたことがあります。「社会的な地位だとか団体は人をだめにすると思います、私は生涯それを避けて暮らしたいのですが？」実際にそう決意していたのですが、別の魂胆もありました。

老師は当時、大学の学長職も兼務されて激務でした。健康を害してられたように見受けての皮肉をこめての間でした。

老師のお答えは「どんな仕事も、それが存在し、誰かがやらなくてはならないのなら、すこしでもよくする方向に自分が努力をするのは間違いいではない」ということでした。それでも私はそれにさえ反抗をし、口答えをしました。老師は「すきなようにやんなさい」と私を窘めることはなかった。

いまだにこの一点では老師にたてついております。私は、つい、名刺で人を判断します。そこに、長い肩書を刷っている方を軽蔑して遠ざけてしまう。あの世の老師からお叱りの揮毫が届くかもしれません。

菓子弁当

新しい年が明けたとたんに関東に広まった新型コロナウイルス感染症。それにともない当初7都府県だった『緊急事態宣言』の対象地域が4月半ばに全国へ拡大となり、それに伴う全国各地の自粛ムードで残念ながら楽しいゴールデンが「STAY HOME週間」となっていました。

そこで注目を浴びているのがテイクアウト。私の中での“テイクアウト”といえはやっぱりお弁当。色んな所のいろんなお弁当がありますよね。

そんななか、お茶のお供の中にもお弁当を発見しました。それが三友堂さんの『菓子弁当』。小さな箱に納められ、中は三つの枠に仕切られていて和三盆糖ともち米を練って作った求肥を短冊状に切った和菓子です。

緑色の求肥餅とピンクの求肥餅には味はなく、その下には白い求肥餅が敷かれています。黄色い求肥餅には白胡麻が練り込まれていて、胡麻粒が与える食感と共に、胡麻の風味がふわっと口の中に広がります。緑・ピンク・白・黄色と彩りがかわいく、1個につき約1.5×2×5.5cm、約15gととても軽くて小さいのでちょっとお散歩してひと休みの時のお菓子としても最適です。

讃岐の和三盆糖をまぶした素朴な餅菓子、心をゆったりのんびり、こんな時にこそ和菓子ですね。



お茶の風景(8)

湯呑の絵付け

生活の中で一番身近な茶器は湯呑でしょうか。食事時やほっと一息といった場に欠かせぬお茶ですが、陶芸作家の高級品から量産規格品まで、お茶を淹れる器はいろいろです。

かつて、職場での女性待遇を「お茶汲みコピー」と軽視した時代がありました。でも、上司や同僚それぞれ専用の湯呑は個性豊か、好みには品格や教養が滲み出るもの、お茶汲みも人間観察になって…と当時を懐かしむ年配女性の回顧談もありました。

ところで、写真は「若人茶会と讃岐もの」のワークショップ理平焼の絵付け体験の自作物ですが、呉須絵具の濃淡を使い分けた紫雲英草と、円筒形をぐるりと囲んだ梅林模様。助言通りに筆描きしたつもりは仕上がりはイマイチ、イマイチながら、我が物と思えばナントやらでお気に入りの逸品です。前述の高級や規格ものの云々にもう一つ、手作りの愛用品を付け足して、身近な茶器・湯呑の話です。



財団行事予定(6月～8月)

6月

- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生
6月2日(火) 午前11時・午後3時
- ◆ 書道教室
毎月第1・第3金曜日 森本義人先生
6月5日(金)・19日(金) 午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)
山下純子先生
6月6日(土)・27日(土) 午後1時～
- ◆ 和菓子講座
毎月第2金曜日 高橋初乃先生
6月12日(金) 午前10時～12時
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日
6月16日(火) 午前10時～午後3時まで
自由なお時間にお出掛け下さい。
ランチは要予約です。

7月

- ◆ 書道教室 森本義人先生
7月3日(金)・17日(金) 午前10時～12時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
7月10日(金) 午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生
7月11日(土)・25日(土) 午後1時～
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日
7月21日(火) 午前10時～午後3時まで
自由なお時間にお出掛け下さい。
ランチは要予約です。
- ◆ あ・うんの数寄講座
「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」
7月26日(日)
講師等詳細は、最終ページに記載

8月

- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生
8月4日(火) 午前11時・午後3時
- ◆ 書道教室 森本義人先生
8月7日(金)・21日(金) 午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)
山下純子先生
8月8日(土)・22日(土) 午後1時～
- ◆ 夏季休館 8月12日(水)～15日(土)
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日
8月はお休みさせていただきます。
- ◆ あ・うんの数寄講座
「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」
8月22日(土)・23日(日)・29日(土)・30日(日)
講師等詳細は、最終ページに記載
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
8月28日(金) 午前10時～12時

茶華道ガイド

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急遽中止になる事もあります。お出かけの前にご確認ください

表千家同門会香川県支部

TEL (087) 845-4638

7/12 東讃四季茶会 席主: 山内宗紀
中條文化振興財団

700円 9:00～15:00

「おいでまい香川」では、香川県内の
様々なイベント情報を随時更新中!
<https://oidemai.kagawa.jp/>



あ・うんの数寄講座

第6回 「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」

本年度の夏期講習の日程が決まりましたのでご案内致します。
今回は、感染防止対策を考慮し規模を縮小して開催する事に致しました。

日程と内容



第1回 7月26日(日)
伊住禮次郎(茶道資料館副館長)
「釜にみる喫茶文化史」



第2回 8月22日(土)
諸田龍美(愛媛大学教授)
「茶の湯と漢詩の心—鑑真・空海・白楽天—」



第3回 8月23日(日)
浅井宗兆(遠州流茶道家元主鑑)
「『小堀遠州』～綺麗さびの心と美の出会い～」



第4回 8月29日(土)
安田浩人(粟田焼)
「初期京焼の展開～『隔莫記』をめぐる～」



第5回 8月30日(日)
奥村吉兵衛(千家十職 表具師)
「奥村家の仕事を継いで」

会場 財団茶室「晴松亭」広間
時間 午前の部 10時30分～、午後の部 14時～の2回
定員 各回20名
会費 10,000円(5回セット券) 高校・大学生は5,000円

参加ご希望の方は、事務局までお申込み下さい。
お申込みの際は、午前か午後のどちらかのコースをお選び下さい。

令和2年度
助成金交付団体決定

今年度の助成金は、6団体からの申請があり、審議の結果、第27回中條文化振興財団助成金交付団体に次の3件が決定いたしました。

助成金交付団体

① Eclogion 代表 三木優希
「コンテンポラリーダンス公演『pb』の開催

② 高原水車友の会 代表 平田恵美
文化財保存活動「水車場屋内外照明設備設置」

③ 高松東部商店振興会 代表 佐野滝子
能のワークショップ～香川ゆかりの能楽を知ろう～
香川県立志度高等学校、高松市立林小学校、木太小学校にて出前ワークショップ開催

来年度の助成金申請は、年度を通して受付けております。詳細は、財団ホームページにてご確認ください。また、事務局までお問合せ下さい。
応募期限は、令和3年1月31日

令和2年度 財団賞推薦募集

詳細は、財団ホームページをご覧ください。
事務局までお問い合わせ下さい。

提出締切 | 令和2年6月30日

編集後記

美しく咲いた花をゆつくりと見ることができませんでした。青葉が陽射しに映えて、心地よい季節になりました。ただ、春先から恒例の行事や催事は、ほぼ中止になり寂しいことですが、今は速くこの災禍が終息するようにと願うのみです。

休校や休園も長く続いている影響か、小さい子供さんと一緒にウォーキングをしている若いご夫婦やサイクリングを楽しんでいる親子などを見かけると、暗いニュースが多い中、心が和みます。

いつまで自粛を要請されるか不明ですが、これからも当財団の計画している催事を予定通りに進めたいと思っています。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017
高松市番町二丁目一十二
公益財団法人 中條文化振興財団編集部
TEL (087) 826-1335
FAX (087) 826-2212
info@chujo-zaidan.or.jp